



平成二十一(二〇〇九)年度 日本及び東洋美術史の 調査研究報告

著者	中谷 伸生, 柴田 就平, 日本東洋美術調査研究班
雑誌名	関西大学博物館紀要
巻	16
ページ	45-45
発行年	2010-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/2925

平成二十一（二〇〇九）年度

日本及び東洋美術史の調査研究報告

中谷伸生
柴田就平
日本東洋美術調査研究班

日本及び東洋美術の調査研究について

〈論文・資料紹介〉

耳鳥齋筆《大石氏祇園一力康楽之図》（関西大学図書館蔵） 中谷伸生

本報告書は、日本及び東洋美術史の調査研究について、前号までの方針と精神を引き継ぎながら、新資料紹介を基本として、調査報告を行うものである。今回は関西大学文学部教授の中谷伸生（美術史）、関西大学アジア文化交流研究センター（CSAC）非常勤研究員の柴田就平（江戸時代から近代にかけての写生派・寄合画帖の研究）、日本東洋美術調査研究班に所属する大学院博士前期課程修士で福島県石川郡古殿町役

上田公長の落款に関する分析とその分類

——大阪市立美術館所蔵作品を中心として——

柴田就平

場主事の竹貫俊英（狩野派障壁画の研究）、芸術学美術史研究室大学院生（博士後期課程）の谿季江（大津絵の研究）、同じく博士後期課程の

井庭可笑作・北尾政演画『東都土産大津名物』

谿 季江

平井啓修（鶴亭と長崎派の研究）が参加した。再三の調査をお許しいただいた大阪市立美術館及び個人所蔵家の皆様から感謝を申し上げます。

鶴亭筆《墨竹図》及び《芭蕉図》

平井啓修

狩野益雪筆《廣覺寺本堂杉戸絵》

——福島における狩野派絵師の活動と作例——

竹貫俊英